

別冊

丹波市創生シティプロモーション
全国公募パートナーシップ事業

リーディングプロジェクト概要書



丹波三宝



丹波竜の里



九尺ふじ



かたくりの花



丹波布

兵庫県 丹波市

1 「トカイナカ」プロジェクト

丹波市は、高速道路網の発達により市内にIC3箇所を持ち、大阪、神戸、京都から自動車でも90分という利便性の高い地域です。県内最北部にある県立病院、水洗化率97%、高い光ファイバー敷設率等、「暮らしやすい都市の魅力と自然の豊かさを共に享受できる地域」として、都市部からの移住者が増加しています。

移住希望者には、仕事・住まい・人のネットワークなど一元的に相談に応じる「丹（まごころ）の里ワンストップ移住相談」や、新たに新規就農や起業をめざす方の起業相談窓口として「たんばチャレンジカフェ」を設置しています。また、県下でもトップクラスの認定こども園の整備や各種子育て支援策が充実しています。

農村の特性と都市的機能を生かしたラーバン*都市「トカイナカ」を仕事、住まい、子育て環境からアプローチし、実現化を図ります。

*ラーバン/RURBAN（英）

都市と農村の中間地帯。「田園的」という意味の“ルーラル”（LURAL/英）と、「都市的」という意味のアーバン（URBAN/英）からの合成語。

- ① 仕事の面でのトカイナカの実現
- ② 住まいの面でのトカイナカの実現
- ③ 充実した子育て環境を活用したトカイナカの実現

2 丹波市ポテンシャルの最大化プロジェクト

丹波市は、丹波栗、丹波大納言小豆、丹波黒大豆の「丹波三宝」をはじめとする農畜産物のクオリティの高さなど、知ると実に興味が湧くものが多くありながら、それが「丹波」という高い認知度に伴っているとはいえません。

プッシュ型の販売促進強化だけでなく、丹波市が持つ地域資源の潜在価値をマーケット・イン視点でとらえ、魅力の最大化を図ります。

丹波市の主な地域資源一覧

農産物	丹波栗、丹波大納言小豆、丹波黒大豆、丹波山の芋（霧芋）、有機野菜、春日なす、スイートコーン、ブルーベリー、いちご、ぶどう、黒ゴマ、丹波ひかみ米
飲食物	鹿肉料理、猪肉、丹波三宝スイーツ、丹波栗きん豚（豚肉）、黒枝豆、大納言小豆を使用した「ぜんざいの町」
地場産業	丹波布、プリザーブドフラワー、釣具、地酒、薬草、丹波若松
観光名所等	丹波竜化石、水分れ公園、黒井城跡、パラグライダー、愛宕祭造り物、清住かたくりの花、白豪寺の九尺ふじ、もみじ、木の根橋、柏原八幡神社、柏原藩陣屋跡、丹波霧、仏師の里達身寺、春日局誕生の寺興禅寺、常勝寺鬼こそ、ホテル、雲海、鬼の架橋、たんば黎明館、薬草薬樹公園

3 バズマーケティング・プロジェクト

ピコ太郎の“PPAP”（ペンパイナッポーアッポーペン）は、Twitter のフォロワーが 6500 万人を超えるジャスティン・ビーバーがツイートしたことがきっかけで、瞬く間に世界中に広がりました。

Facebook、Twitter、Instagram などの SNS を活用し、クチコミにより伝えていくバズマーケティング手法によってバイラルな流れを作り、丹波市の地域資源のプロモーションを図ります。

① パブリシティ活動の最大化

インパクトのある切り口やストーリー性を活かして、マスコミなどを通じて情報が独り独りに拡散する仕掛けに着目して、PR 経費を抑えた情報発信を図ります。

② インバウンド観光へのアプローチ

訪日観光の目的は、「爆買い」から「飲食・体験」へとシフトしています。京阪神から近い丹波市がインバウンドに成功する可能性を引き出し、実現化を図ります。

例えば、

□朝里駅（北海道／無人駅）に押しかける中国人、韓国人

朝里駅は、2015 年 1 月、新婚夫婦がハネムーン先の小樽で繰り広げる人間模様を描いた台湾の監督の短編映画のロケ地となり、同年 8 月に中国で公開された。

また、韓国では 1999 年に韓国で大ヒットした映画「ラブレター」が昨年 1 月に再上映された。この映画は小樽市朝里の中学校がロケ地の一つ。短編映画とラブレターの再上映によって、中国人や韓国人の間で朝里の人気が高まっているという。

□沖縄の軽スポーツカーレンタル、絵本など。

本国では販売されていない軽自動車のスポーツカー乗車目的で、中国、台湾、韓国からの若者が殺到。レンタカーを半日ごとに乗り換え、宿を後回しにしているのが特徴的。この客が同じく本国では入手できない日本の絵本を購入。

③ 多彩に富んだ地域資源の活用

地域資源については、「2 丹波市ポテンシャルの最大化プロジェクト」の地域資源一覧を参照下さい。

4 スタディツアー・プロジェクト

「自分の目で見て」「地域住民の生の声を聞いて」丹波市の魅力を手触りで確かめ、丹波ファンを創造します。

① 平成 26 年 8 月豪雨災害からの復興

1 時間に 100mm、3 時間で 200mm、24 時間で 400mm 超の豪雨災害は、250 箇所以上の山腹崩壊を招き、丹波市に甚大な被害を与えました。それでも死亡者 1 名という最低限の人的被害です。背景には、公助頼りではなく、自分自身や自分が住む地域を守りたいという自助や共助の考えから、自発的に地域住民が行動を起こしたことによります。

被災地では、発災～応急復旧～復旧～復興を通じ、全国モデルとなるような取り組みが数多く行なわれています。阪神・淡路大震災以降、災害についての学びが残っている地域の少ない関西圏において強いコンテンツになるため、復興状況を自分の目で見て、地域住民から生の声を聞いて、地域防災力とは、復興とは何かを学びます。

- ・なぜ人的被害は最小限ですんだのか
- ・自助・共助・公助と「連携協働」という第 4 のチカラ
- ・現地災害対策本部の体制
- ・災害ボランティアセンター
- ・生活復興カレンダー、復興熟度指標
- ・災害残土を利用したほ場再整備
- ・官民協働型による復興プロジェクト
- ・女性の得意分野を活かした地域産業の創出 など

② 移住促進ツアー

「暮らしやすい都市の魅力と自然の豊かさを共に享受できるトカイナカ丹波市」で、地域や自然を体験し、本当の「豊かさ」を体験するツアーを目指します。

丹波市は、相談制度や起業支援、空き家再利用といった受入態勢が整っており、ツアーを開催することにより人材発掘、担い手発掘のために移住促進ツアーを確立します。

5 廃校舎の利活用プロジェクト

平成 29 年 3 月をもって廃校となった 3 つの校舎を利活用して、地域の活力を向上させる取り組みを呼び込みます。

3 校舎の共通情報・図面・現況写真は、廃校舎情報で確認いただけます。